

アオゲラの就峙時間の観察

藤井忠志¹

アオゲラ *Picus awokera* は、日本の固有種で、全長約29cmの中型のキツツキである。本種の生態を明らかにすることは、日本では減少していると思われるクマゲラ *Dryocopus martius* などのキツツキ類の生態を明らかにし、保護を進めていくうえでも役に立つと考え、本種の生活史の一部である就峙時間を記録し、日の入り時間や天候との関係を調べた。

調査は1988から1991年にかけて岩手県下閉伊郡岩泉町の山間部に位置する有芸中学校および旧黒沢分校で行なった。有芸中学校には2羽の雄のアオゲラが、黒沢分校には1羽の雄のアオゲラがねぐらをとっており、この3羽を対象とした。調査は周年行ない、4月から9月を夏期、10月から3月を冬期とし、就峙行動の季節変動の解析を行なった。

ねぐら穴より約20m離れた校舎内および車内から、アオゲラの就峙時間を分単位で記録し、アオゲラの警戒心が強い場合は、ねぐらの天井板にアオゲラから観察者がみえないような小さい穴を開けて観察した。

アオゲラの就峙時間と日の入り時間との関係を明らかにするために、宮古気象台の観測結果を利用した。実際の調査地の日の入り時間は気象台の観測結果よりも3分早かったため、気象台の観測結果より3分早い値を調査地の日の入り時間とした。また、就峙時間が天候に左右されるかどうかを調べるため、調査時の天候を記録した。天候は晴れと曇りを好天、雨と雪を悪天候の2つにわけて記録した。

アオゲラの就峙時間は冬期、夏期ともに好天の場合は、日の入り約10分後であった(図1)。それに対し、悪天候の場合は、好天の場合と比べて有意に就峙時間が早く(図1に平方根変換の統計検定による95%信頼限界の差を示している)、日の入り20分前から日の入り直前にかけて就峙した。また冬期と夏期のあいだには、好天時にも悪天時にも就峙時間に有意な差はみられなかった(図1)。これらの結果は、アオゲラの就峙時間が日の入り時刻により決まっていることを示している。また、就峙時間は天候により変動したが、好天時は遅くまで採食しやすいこと、悪天時は羽毛がぬれて体力が消耗しやすいことを防ぐためではないかと考えられる。

調査地での就峙が頻度高く記録されたのは、10月から5月にかけてであった。就峙があまり記録されなかった時期は、ちょうどアオゲラの繁殖期にあっており、キツツキ類は繁殖期に雄が夜間在巢することが知られているので(泉 1985)、繁殖のためにねぐらが利用されなくなったものと思われる。

アオゲラは人への警戒心が強いにもかかわらず、人工建築物で、人の出入りも多い木造校舎をねぐらとして利用していた。このことは、木造校舎が比較的穴がほりやすいこととともに、近年の山林の伐採とともにアオゲラの生息環境が悪化した結果、好適なねぐらが不足しているためかもしれない。

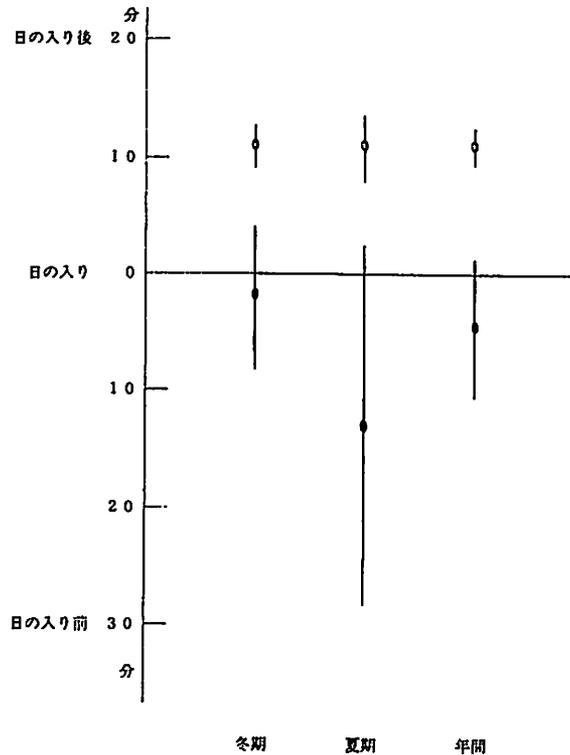


図1. 3個体の冬期, 夏期, 年間における就峙時間の平均値と95%信頼限界を天候別に示したもの. ○印は好天時の平均値, ●印は悪天候時の平均値, 棒は95%信頼限界を示す.

謝 辞

アオゲラの就峙時間データ収集のため, 厳寒時じっと外で待機してくれた家族の藤井啓明, 慎也, 美保子, 勤務時間中データ収集のため職場を離れることを許可いただいた当時の有芸中学校校長・及川邦夫氏, そして本稿をまとめるにあたりデータ処理ほかにご協力いただいた由井正敏氏に深く感謝の意を表す.

引用文献

泉 祐一. 1985. ブナ林の鳥類. ブナ帯文化, 東京.

Initial roosting time of the Japanese Green Woodpecker *Picus awokera*

Tadashi Fujii¹

From 1988 to 1991, I observed the time that three Japanese Green Woodpeckers *Picus awokera* went to their roost at Ugei Junior High School in Iwate Prefecture. The roosting time of the woodpeckers was influenced by weather. The woodpeckers tended to roost earlier than sunset on rainy or snowy days, and roosted later than sunset on other days.

1. 1-14 Osawa Yamada-town Simohei-gun, Iwate 028-13.